



読売新聞中部支社発刊35周年記念

# 読売日響名曲シリーズ 名古屋公演



管弦楽：読売日本交響楽団

Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, Tokyo

© 浦野俊之



## ロッシーニ 歌劇〈結婚手形〉序曲

Rossini/ "La cambiale di matrimonio" Overture

ドヴォルザーク

## ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53

Dvořák/ Violin Concerto in A minor, op.53

～スッペ序曲集～

## 序曲〈ウィーンの朝・昼・晩〉

## 喜歌劇〈怪盗団〉序曲

## 喜歌劇〈美しきガラテア〉序曲

## 喜歌劇〈スペードの女王〉序曲

Suppé/ Overtures

"Morning, Noon and Night in Vienna"

"Jolly Robbers"

"The Beautiful Galathea"

"Pique Dame"

指揮

下野 竜也

(読売日響正指揮者)

Conductor: Tatsuya Shimono

© 浦野俊之



ヴァイオリン  
リザ・フェルシュトマン

Violin: Liza Ferschtman

© Marco Borggreve

2010

1/12 火曜日◆  
午後7:00開演  
午後6:30開場

## 愛知県芸術劇場コンサートホール

S席¥6,000 A席¥5,000 B席¥3,000

子どもの指定席¥1,000 (全席指定・消費税込み)

●お問い合わせ

読売新聞中部支社事業課 052(211)0083

### 子どもの指定席 推奨コンサート

◆“子どもの指定席”は、多くの小学生・中学生・高校生の子どもたちに、ぜひ鑑賞していただきたい芸術性の高いコンサートを、読売日響主催公演の中から厳選し、低料金(¥1,000)で一般聴衆とともに鑑賞していただくもので、音楽情操教育の一助になる事を目的として設置したものです。なお、おとな同伴者は、一般料金となりますのでご注意ください。

【購入方法】電話受付後、振込用紙をご送付。お振込み確認後、チケット送付。

【お問い合わせ・申込み】読売新聞中部支社事業課052-211-0083

### 【前売所】

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード=329-657)  
ローソンチケット 0570-084-004 (Lコード=46736)  
ローソンチケット (演劇・クラシック専用ダイヤル、オペレーターが対応  
受付は午前10時～午後8時) 0570-000-407  
栄プレチケ92/ヤマハミュージックプレイガイド  
芸文センタープレイガイド 052-972-0430  
よみうりサービスプラザ 052-211-0051

【主催】読売新聞社、中京テレビ放送(株)、読売日本交響楽団

【後援】愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

◆都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。  
◆未就学児童のご入場は、固くお断りいたします。◆開演後の途中入場はご遠慮ください。

バックステージツアー開催決定!! 詳細は11月中の読売新聞にて発表予定。



## 下野 竜也 (指揮) *Tatsuya Shimonon, Conductor*

2006年11月、読売日響初代「正指揮者」に就任。

1969年鹿児島市生まれ。鹿児島大学教育学部音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部附属指揮教室で学ぶ。96年にはイタリア・シエナのキジアーナ音楽院でオーケストラ指揮のディプロマを取得。97年から99年まで大阪フィル指揮研究員として、故朝比奈隆氏の薫陶を受ける。99年文化庁派遣芸術家在外研修員に選ばれ、同年9月よりウィーン国立音楽大学に留学、その後も01年6月まで在籍。

秋山和慶、黒岩英臣、石井調、広上淳一、チョン・ミョンフン、ユーリ・テミルカーノフ、レオポルド・ハーガー、湯浅勇治、エルヴィン・アツツェルの各氏に師事。

2000年第12回東京国際音楽コンクール〈指揮〉優勝と齋藤秀雄賞の受賞、01年9月におこなわれた第47回ブザンソン国際指揮者コンクール優勝で、一躍脚光を浴びた。以降、国内の主要オーケストラへの度重なる客演に加えて、国外でもストラスブル・フィル、ボルドー管、ウィーン室内管、パドゥルー管、ロワール管、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、ローマ・サンタチェチーリア管などに客演、その多くは再演へと発展している。

下野竜也の指揮活動の根底には、デビューしてから一貫して持ち続ける「楽譜に忠実に。作曲家の意図するところをどこまで汲み取り、素直に表出できるか」との思いがある。レパートリーはドイツ・ロマン派の作品を核にしながらかも多岐にわたり、特に現代作品の分野では、ジョージ・ベンジャミン氏、松平頼暁氏ら前衛作曲家からその手腕が高く評価されている。

読売日響とは《下野竜也・ドヴォルザーク交響曲シリーズ》や《下野プロデュース・ヒンデミット・プログラム》を中心に意欲的な活動を展開し、大きな注目を集めている。

02年出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、06年第17回新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞、07年第6回齋藤秀雄メモリアル基金賞をそれぞれ受賞している。

読売日響との初ライブCD「パッサ/齋藤秀雄:シャコンヌ、コリアーノ:交響曲第1番」も高い評価を得ている。

07年4月より上野学園大学音楽文化学部教授も務めている。



©下野竜也

## リザ・フェルシュトマン (ヴァイオリン) *Liza Ferschtman, Violin*

リザ・フェルシュトマンは若手ヴァイオリニストのなかでも最も重要な演奏家のひとりともみなされており、情熱的であると同時に知性溢れる演奏で高い評価を得ている。

近年ロイヤル・コンサートヘボウ管、アムステルダム・シンフォニエッタ、ロッテルダム・フィル、オランダ放送フィル等のオランダの主要オーケストラや、プラハ・フィルハーモニア、リスト室内管、パドヴァ管、シュレスビヒ・ホルシュタイン祝祭管、イスラエル響等と共に共演。これまでに共演した指揮者としてレナード・スラットキン、ヤープ・ファン・ズヴェーデン、フランス・ブリュッヘン、ティエリー・フィッシャー、クリストフ・フォン・ドホナーニ、シュロモ・ミンツなどが挙げられる。

オランダのデルフト室内楽フェスティバルの芸術監督をつとめ、室内楽にも積極的に取り組んでいる。2005/06シーズンにはアムステルダム・コンサートヘボウでイオン・バルナタンのピアノでベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタの全曲演奏会を行ったほか、ニューヨークでリサイタル・デビューを果たし好評を博した。また07/08シーズンにはバルナタン、ワイラースタイン(チェロ)らとの室内楽でワシントン・デビューを飾った。08年にはアムステルダム・コンサートヘボウの夏のコンサート・シリーズのスペシャル・ゲストに選ばれ、室内楽とオーケストラ演奏会からなるミニ・フェスティバルに出演、全公演が完売となるほどの人気を博した。

ラヴィニア、ウエスト・コーク、リソー、コーンウォールのPrussia Cove等の国際音楽祭にも定期的に出演している。

録音も積極的に行い、フランク、プーランク、ドビュッシーのソナタとチャイコフスキー、ストラヴィンスキーらの小品によるCDでデビュー。2枚目となるシュベルトとベートーヴェンの作品集も批評家から高い評価を得ている。

ロシア人音楽家の家庭に生まれ、5歳でヴァイオリンを始め、イヴリー・ギトリス、イーゴリ・オイストラフ、アーロン・ロザンドらのマスター・クラスに参加、その並外れた才能はすぐに注目を集めるようになった。アムステルダム音楽院でヘルマン・クレッパース、カーティス音楽院でアイダ・カバフィアン、ロンドンでデイヴィッド・タケノにそれぞれ師事。06年11月にはオランダで最も榮譽あるオランダ音楽賞を受賞した。

[www.lizaferschtman.com](http://www.lizaferschtman.com)



©Marco Borggreve

## 読売日本交響楽団 *Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, Tokyo*

読売日本交響楽団は1962年、日本のオーケストラ音楽の振興と普及のために読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビの読売グループ3社を母体に設立された。翌63年にはハチャトゥリアン指揮・コーガンのヴァイオリン独奏で公演を行い、また65年にはブリテン〈戦争レクイエム〉を日本初演するなど、設立当初から話題を呼んだ。創立以来、ストコフスキー、メータ、ヴァント、チェリビダッケ、マゼール、ロストロポーヴィチ、サンティ、ベルティーニ、テミルカーノフ、ホーネック、ゲルギエフといった世界的な巨匠を指揮台に招くとともに、ルービンシュタイン、リヒテル、アルゲリッチ、内田光子、ヨーヨー・マ、五嶋みどりら世界の名だたるソリストと共演を重ねている。

現在、定期演奏会を軸に名曲シリーズなど5つのシリーズを揃え、最先端のプログラムから聴きやすい名曲プログラムまで、充実した内容で聴衆を魅了している。特に、スクロヴァチェフスキによるブルックナーやブラームス、シューマンの交響曲サイクルや、下野竜也によるドヴォルザークやヒンデミットのシリーズは高く評価されている。また、2007年度より東京芸術劇場と提携し、同劇場主催のシアターオペラやファミリーコンサートなどに度々出演、好評を博している。

新作の委嘱にも積極的に取り組み、三善晃〈アン・ソワ・ロワンタン〉、

武満徹〈トゥイル・バイトワイライト〉などの名曲を生んできた。また01年以来、毎年、新作を委嘱する「読売日響 委嘱シリーズ」を続け、細川俊夫の作品をはじめ多くの作品が作曲賞を受賞するなど、作曲界の発展にも寄与している。

海外では、67年の北米公演をはじめ、71年から03年にかけて計6回、欧州各国で公演。96年にタイ、97年に中国(北京)を訪れている。81年にライブツイヒ第1回国際オーケストラ・フェスティバルに参加。00年にはアジア代表としてスペイン・カナリア諸島音楽祭に招かれ、さらに日本のオーケストラとして初めてザルツブルク祝祭大劇場のシリーズに出演した。

68年、若杉弘指揮のベンデレツキ〈ルカ受難曲〉の日本初演が芸術祭賞に輝いたのははじめ、00年にはグルリット〈ヴォツェック〉が芸術祭優秀賞を、04年のヤナーチェク〈運命〉が佐川吉男賞を受賞するなど、受賞歴多数。最近では、08年の第475回定期演奏会《下野竜也プロデュース・ヒンデミット・プログラムII》が芸術祭優秀賞に輝いたことが記憶に新しい。

なお、定期演奏会などの様子は日本テレビ「読響Symphonic Live〜深夜の音楽会」で放送されているほか、インターネットの「第2日本テレビ」でも動画配信され、好評を得ている。